

『朝旦偈辞(ちょうたんげじ)(甦りの誦句)』

我は今、力と勇氣と信念とをもって甦り、新しき元気をもって、正しい人間としての本領の発揮と、その本文の実践に向かわんとするのである。

我はまた、我が日々の仕事に、溢るる熱誠をもって赴く。

我はまた、欣びと感謝に満たされて進み行かん。

一切の希望、一切の目的は、厳肅に正しいものをもって標準として定めよう。

そして、恒に明るく朗らかに統一道を実践し、ひたむきに、人の世のために役立つ自己を完成することに、努力しよう。

『力の誦句』

私は、力だ。

力の結晶だ。

何ものにも打ち克つ力の結晶だ。

だから何ものにも負けないのだ。

病にも、運命にも、

否、あらゆるすべてのものに打ち克つ力だ。

そうだ！

強い、強い、力の結晶だ。

『思考作用の誦句』

我は今、宇宙霊の中にいる。

我はまた、霊智の力とともにいる。

そもそも宇宙霊なるものこそは、万物の一切をより良く作り更えることに、常に公平なる態度を採る。

そして、人間の正しい心、勇気ある心、明るい心、朗らかな心という積極的の心持ちで思考した事柄にのみ、その建設的なる全能の力を注ぎかける。しかりしこうして、かくのごとくにしてその力を受け入れしものこそは、またまさしく力そのものになり得るのである。

『人間本質自覚の誦句』

人は万物の霊長として、宇宙霊のもつ無限の力と結び得る奇しき働きをもつものを、我が心の奥に保有す。

かるがゆえに、

かりにも真人たらんには、いたずらに他に力を求むるなからずである。

人の心の奥には、潜在勢力という驚くべき絶大なる力が、常に人の一切を建設せんと、その潜在意識の中に待ち構えているがゆえに、いかなる場合においても心を虚に、気を平にして、一意専心この力の躍動を促進せざるべからず。

『言葉の誦句』

私は今後かりそめにも、我が舌に悪を語らせまい。

否、一々我が言葉に注意しよう。

同時に今後私は、もはや自分の境遇や仕事を、消極的な言葉や、悲観的な言葉で、批判するような言葉は使うまい。

終始、楽観と歓喜と、輝く希望と澆刺()たる勇氣と、平和に満ちた言葉でのみ活きよう。

そして、宇宙靈の有する無限の力を我が生命に受け入れて、その無限の力で自分の人生を建設しよう。

()「澆」は本当は、さんずい+「發」

『大偈の辞』

ああそうだ！！

我が生命は宇宙霊の生命と通じている。宇宙霊の生命は無限である。

そして、不健康なるものや不運命なるものは、宇宙霊の生命の中には絶対にいない。そして、その尊い生命の流れを受けている我はまた、完全でそして人生の一切に対して絶対に強くあるべきだ。

だから、誠と愛と調和した気持ちと、安心と勇気とで、ますます宇宙霊との結び目を堅固にしよう。

『運命の誦句』

およそ宇宙の神霊は、人間の感謝と歓喜という感情で、その通路を開かれると同時に、人の生命の上に迸り出でようと待ち構えている。

だから、平素出来るだけ何事に対しても、感謝と歓喜の感情をより多くもてば、宇宙霊の与えたまう最高のものを受けることが出来るのである。

かるがゆえに、どんなことがあっても、私は喜びだ、感謝だ、笑いだ、雀躍だと、勇ましく湧刺()と人生の一切に勇往邁進しよう。

()「湧」は本当は、さんずい+「發」

『統一箴言』

人の生命は宇宙の創造を司る宇宙霊(=神仏)と一体である。そして人の心は、その宇宙霊の力を、自己の生命の中へ思うがままに受け入れ能う働きをもつ。しかもこうした偉大な作用が人間に存在しているのは、人の進化の原則に従い、宇宙霊とともに創造の法則に順応する大使命を与えられているがためである。

私は心から喜ぼう、この幸いとこの恵みを！

私は今、人の世のために何事かを創造せんと欲する意欲に燃えている。そしてかくのごとくに心を燃やしていれば、いつかは、宇宙霊は私に何をなすべきかを教えたもうにきまっている。

私は今、私の生命の中に、新しい力と新しい元気とを感じる。

私は今、心も肉体も新生しつつあるのである。

同時に私は今、限りなき喜びと輝く希望とに雀躍する。

それは、私は今、宇宙霊の叡智を、真実に、自分の生命の中に受け入れる秘訣を会得したからである。

それゆえに私の創造の力は、最も旺盛でかつ完全である。

したがって私の人生は、昨日までの人生でなく、澆刺()とした生気が溢れ、敢然とした勇気で漲っている。

そして何事をも怖れず、また何ものにも怯まず、人生の一切を完全に克服し、ただ一念宇宙霊の心と一体化して、あまねく人類幸福のために、創造に勇ましく奮闘せんとするのみである。

()「澆」は本当は、さんずい+「發」

『信念の誦句』

信念、それは人生を動かす羅針盤のごとき尊いものである。

したがって、信念なき人生は、ちょうど長途の航海の出来ないボロ船のようなものである。かるがゆえに、私は心理に対してはいつも純真な気持ちで信じよう。

否、信ずることに努力しよう。

もしも疑っているような心持ちが少しでもあるならば、それは私の人生を汚そうとする悪魔が、魔の手を延ばして、私の人生の土台石を盗もうとしているのだと、気をつけよう。

『座右箴言』

私はもはや何事をも恐れまい。それはこの世界ならびに人生には、いつも完全ということの以外に、不完全というもののないよう宇宙心理が出来ているからである。否、この心理を正しく信念して努力するならば、必ずや何事といえども成就する。

だから今日からはいかなることがあっても、また、いかなることに対しても、かりにも消極的な否定的な言動を夢にも口にすまい、また行なうまい。そしていつも積極的で肯定的の態度を崩さぬよう努力しよう。

同時に、常に心をして思考せしむることは、“人の強さ”と“真”と“善”と“美”のみであるよう心がけよう。

たとえ身に病があっても、心まで病ますまい。たとえ運命に非なるものがあっても、心まで悩ますまい。否、一切の苦しみを、なお楽しみとなすの強さを心にもたせよう。

宇宙霊と直接結ぶものは心である以上、その結び目は断然汚すまいことを、厳かに自分自身に約束しよう。

『恐怖観念撃退の誦句』

人の心霊が宇宙の神霊と一致するとき、人の生命の力は驚嘆に値する強さをもつに至る。しかもこの尊厳なる宇宙の神霊と一致するには、第一に必要なことは心の安定を失ってはならないことである。

そして心の安定を失うことの中で、一番戒むべきものは恐怖観念である。そもこの恐怖なるものこそは、価値なき消極的の考え方で描いているシミだらけな醜い一つの絵のようなものだ。否、寸法違いで書いた設計である。

かるがゆえに、今日からは私は断然私の背後に、私を守りたもう宇宙霊の力のあることを信じて、何事をも怖れまい。

否、人が常にかくあることを心がけるならば、必然、人生に恐怖に値するものがなくなるからである。

ゆえに健康はもちろん、運命の阻まりしときといえども、本当に私は私の背後に、私を守りたもう宇宙霊の力のあることを信じて、何事をも怖れまい。

『不幸福撃退の誦句』

私はもう何事が自分の人生に発生しようと、決していたずらに心配もせず、また悲観もしないように心がけよう。それはいたずらに心配したり悲観したりすると、すればするほどその心配や悲観する事柄が、やがていつかは事実となって具体化してくるがゆえである。

神仏と名づけられている宇宙霊なるものの心の中には、真善美以外に、心配や悲観というような消極的な心持ちは、夢にもない。私はその宇宙霊の心と通じている心をもつ万物の霊長たる人間である。したがって私がこの自覚を明瞭にした以上は、下らぬことに心配したり、悲観したりする必要はさらさない。

人はどこまでも人としての面目を発揮せぬと、人間の、第一つらよごしである。

人間が人間らしくあるときにのみ、人間の恵まれる幸福を享け得る。

だから私は、宇宙霊の心と宇宙霊の力に近寄るために、心配や悲観という価値なきことを断然しないことにする。そして真理に則した正しい人生に生きよう。

『勇気の誦句』

自分はこの世に作られたものの中で、一番優秀な霊長といわれる人間ではないか。しかも人間の心の力は、勇気というものでその圧力を高めるのが、人の生命に与えられた宇宙心理である。

だから今日からの自分は、いかなる場合にも断然勇気を失うことなく、特に自己の本能や感情の中で、自他の人生を泥ぬるがごとき価値なき低劣な情念が発生したら、それに立派に打克ち得る強い心を作るために、大いに勇気を煥発することに努めよう。

そうだ。

終始一貫、勇気、勇気で押し切るのだ。

『想像力の誦句』

私は今正に喜びと感謝に満たされている。それは宇宙霊は人間の心の中に、想像という特別の作用を賦与して下されているからである。そして宇宙霊は、常に我々を我々の想像する観念どおりの世界へと、真実に導き入れるべく、その準備を尽されている。

だから心して創造の作用を正確に応用すれば、それはとりもおさず、幸福の楽園へのよき案内者を作ったのと同様である。

かるがゆえに、私は能うかぎり可能的で高級なる想像の絵を心に描こう、はっきりと明瞭に、ただしどんなことがあっても、夢にも自分の生命を腐らし泥ぬるような価値のないことは想像するまい。

そして宇宙霊の定めた約束どおり、その想像の中から正しい人生設計を現実化する気高い理想を作り上げよう。

『理想の誦句』

人の生命は常に見えざる宇宙霊の力に包まれている。

したがって、宇宙霊のもつ万能の力もまた、我が生命の中に当然存在しているのである。

ゆえに、いかなる場合にも、またいかなることに、怖れることなく、また失望する必要はない。

否、この心理と事実とを絶対に信じ、恒に高潔なる理想を心に抱くことに努めよう。

さすれば、宇宙心理の当然の帰結として、必ずや完全なる人生を作為される。

今ここにこの天理を自覚した私は、何という恵まれた人間であろう。

否、事実、至幸至福というべきである。

したがって、ただこの上は無限の感謝をもってこの心理の中に安住するのみである。

『一念不動の誦句』

私は、私の求むるところのものを、最も正しい事柄の中に定めよう。

そして、それをどんなことがあっても、動かざること山のごとき磐石の信念と、脈々として流れ尽きざる、あの長い川のごとく、一貫不断の熱烈なる誠をもって、その事柄の実現するまで、いささかも変更することなしに、日々、刻々、はっきりと、心の中に怠りなく連想していこう。ちょうど、客観的に看察するがごとくに……。

私は、もはや、消極的の思想や観念やまたは暗示に感じない。また、そうしたものは、私を動かすことは出来ない。

私は断然そうしたものより、より以上のものである。

私は、もはや、あらゆる人生の中の、弱さと小ささを踏み越えている。

そして、私の心は、今、絶対に積極的である。

おおそうだ、私の心は勇気と信念とで満ち満ちている。

したがって私の考え、私の言葉、それはいずれも颯爽とし、いつも正義である。

だから、私には、人生のあらゆる場面に奮闘し得る、強い強い力が溢れているのだ。

そして、私の人生は、どんな人の世の荒波に脅かされても、あの大岩の上に屹然として立つ灯台のように、平静と、沈着と、平和と、光明とに、輝き閃いているのだ。

『修道大悟の誦句』

そもさん、われら、かりそめにも、天地の因縁に恵まれて、万物の靈長たる人間として、この大宇宙の中に生まれし以上、まず、第一に知らねばならぬことは、人生に絡まり存在する幽玄微妙なる宇宙心理なり。

誠や、この自覚を正しく厳かになし得なば、敢えて求めずとて、その身を健やかに、その運命を和やかにするを得ん。

これぞ、正に、千古昭として耽存する、尊厳冒すべからざる人生の鉄則にして、また、神ながらに定められたる、動かすべからざるの天理なり。

しかも心より喜ばんかな、われら、今や正に、雀躍する感激に咽びつつ、この妙諦とその手段とを知れり。

ああこの幸い、この恵み！そも何をもってかたとえん。

顧みれば、転々として人生の悶えと悩みに苦しみしこと幾年月！

今や、われ、ここに、豁然として無明の迷いより覚め自覚更正の大道に入るの関門に立ち、心眼すでに開けて行手に栄光燎乱たる人生を望み得し今日、我が心はただ、ひたすらに、言い能わざるの、限りなき欣びに勇みたつ。

しかり！世の人々の、すべてのすべて、よしや富貴栄達名門名誉の人といえども、しよせん味わい得ぬ、この欣びと、この感激！

誠！恵まれたる我よ、と思えば、などか、この尊き因縁を、とこ

しえに忘れ能うべき。

されば、堅く、我と我が心に、この欣びと、この幸いとを根強く植えつけて、一意専心、黽勉努力、実践躬行、ふたたび人生無自覚の過ちを繰り返さざらんがために、厳かに反省の鞭をを手にし、ひたむきに向上の一路へと颯爽と邁進し、われらの住むこの世界に、誠と、愛と、平和に生きんとする人の数を多からしむるべく、我まず、その模範の人とならんことを、自から、自からの心に、厳として誓わん。